

「国家財政の見える化」委員会 より

第3回「国家財政の見える化」委員会

2020年2月25日(火)13:00～15:00 TKPガーデンシティPREMIUM京橋

第3回「国家財政の見える化」委員会を開催し、これまでの活動進捗と、来年度に向けた活動の方向性について議論を行いました。

また、慶應義塾大学経済学部 土居 丈朗 教授に「わが国の財政の諸課題とその処方箋」と題して、ご講演いただきました。

「国家財政の見える化」を重点課題として2年に渡り取り組みを継続しておりますが、来年度に向けては見える化を進めると同時に、次の段階である「予算編成プロセスの課題」についてさらなる調査・研究を進めてまいります。



▲キリンビール
井上常務執行役員(座長)



▲札幌消費者協会
高田会長(共同座長)

【今後の活動について】

国家財政の見える化実現に向けて、右記の通り3項目について活動を進めてまいりました。その中で国家財政の問題点について改めて下記4点整理しています。

1. 国家の成長に向けた投資ではなく、社会保障費・国債費の償還のような側面で毎年予算が膨張していること
2. 中長期の経済財政に関する試算が甘く、戦略的な予算配分ができていないこと
3. 政策の成否に対する検証や国の政策全体に対するPDCAサイクルが欠落していること
4. 1-3いずれにおいても、国民に対しての説明が乏しく、国民不在で透明性のないまま意思決定されてしまうこと

これらの問題が生じてしまう要因として**予算編成プロセス・「予算単年度主義」**に課題が集約されていると考え、

【3ヶ年複数年度予算制度】の導入実現に向けて注力してまいります。

「見える化」の継続

- (1) 連結財務諸表を国会提出資料とする為の法整備
- (2) 国民向けの平易なリーフレット作成

国家の将来像を見据えた財政制度の構築

- (1) 単年度予算からの脱却(複数年度シーリングの実現)
- (2) 独立財政機関の設置

従来の制度やムダの違いの見直しを推進

具体的な見直すべき制度・ムダの違いについて問題提起

現行の単年度予算

前年踏襲
ボトムアップ
硬直化
年々膨張
使い切り

3ヶ年複数年度予算

ゼロベース
トップダウン
戦略的
歯止め・規律
繰り返し

3ヶ年複数年度予算制度とする事で以下の2点が実現できると考える。

- ① 少なくとも向こう3年間の予算の使い道について有効的・戦略的に定めること
- ② 3年間の中でシーリング(上限設定)を設け、その期間内でのやり繰りを可能にすると同時に規律を強化すること

講演「わが国の財政の諸課題とその処方箋」

3回目の委員会には、予算編成をはじめ、国の財政全般の在り方を検討する財政制度審議会等財政制度分科会の臨時委員でいらっしゃる、歳出改革部会の会長代理を務めておられる慶應義塾大学経済学部 土居 丈朗 教授に「わが国の財政の諸課題とその処方箋」と題してご講演いただきました。



▲ご講演くださいました 土居 丈朗 教授

【講演要旨】

■日本の財政にまつわる誤解

- 日本の政府債務はネット(年金積立金、アメリカ国債など)で見れば多くないから心配ない、景気がよくなれば税収は大きく増えるから増税は必要ないというのは「誤解」であり、その誤解を払拭して健全な財政運営につなげなければならぬ。
- MMT(現代貨幣理論)のように財政は破綻しないというのは15秒で唱えられるが、誤解を解くには丁寧な説明が必要になる。
- 政府債務をネットで見ればと言うが、楽観論者の主張には負債側に年金給付債務が含まれておらず、やはりグロスで見べき。政府債務が200%を超過しているのは歴史上3度しかなく、今の日本が4度目。
- 日本の財政は社会保障費と国債費が膨らみ続け、「財政の硬直化」が一層進んでしまっている。

■今後のわが国の財政運営の展望

- 税収をどう確保するか、税制は日本経済の行く末を決める重要な要素。
- 名目成長率の試算は保守的でなければならない、現状は楽観的すぎる。
- 楽観的試算であるためにGDPは大きく成長すると見込まれ、政府債務残高対GDP比も下落するシミュレーションになっていることは問題。

■予算編成改革

- 予算と決算、行政評価がリンクされなければならないが、今はそれが全くない。決算は報告されるだけで、評価は伴わないし、それが改善につながることはない。
- 当初予算だけでなく、補正予算を含めた予算統制が必要。補正回しにせず、当初予算で決着をさせるべき。
- 度の過ぎた裁量が働いた補正予算に歯止めをかけるには、中長期的な財政計画が必要。

■複数年度予算編成

- 複数年の歳出総額とアウトプット・アウトカムで中期的に統制すべき、衆議院議員の任期が4年であることから3年というのは妥当。
- 予算と政策評価との連動が重要であり、評価するためにも目標設定は具体的なものでなければ意味がない。
- 今は毎年切った張ったの予算決定だが、3年という期間を設けることで、3年後の目標設定と評価が可能になる。
- 評価するからには善し悪しを明確にしなければならない。

【出席者からの発言を一部抜粋】

- 複数年度予算は大いに進めていただきたい。それと同時に単年度の見える化を継続して要望してほしい。財務省に問い合わせると公表していると言うが、それぞれの科目の積算根拠も見えるよう求めていただきたい。
- 3ヶ年の複数年度予算については賛成。1つ抜けている視点があるとすれば女性活躍推進のための予算の導入だと思う。
- 本日のような委員会を含め、より開かれた委員会を考えてほしい。国家財政に関して触れる機会として、オブザーバー参加があっても良いのではないかと。
- ぜひ特別会計を深堀してほしい。中を見ると特定の人が専門分野を長年司っているような状況でガラパゴス化していると聞いている。

